

まゆだま作り

10日(水)に各学級で繭玉作りをしました。園では、普段から五感を使って色々なことを経験できるように工夫していますが、今回も一人ひとりが楽しんでいました。

各学級では、まず大きなボールに米粉を入れ、それを子どもたちが直接触って、さらさら感やわずかな匂いなどを、一人ひとり確かめました。その後、粉に少しずつ水を加えて柔らかい粘土のようになった塊を、今度はみんなで順番にこねてちょっとザラつきのある感触を味わいました。そこに赤や黄色、青、緑などの食紅で色付けをしてから一人ずつに分けて丸めました。ところが、べたつく生地は重い通りにならず、指や手の平にくっついて悪戦苦闘。蛇を作るのは大得意な子どもたちですが、球形は四苦八苦。それでも最後には、何とかそれらしい形にできていました。そして、職員室で茹でてもらい、まゆだまの木である「みずき」の枝に一人一人がまゆだまを刺して、学級の出入り口に飾りました。触覚、嗅覚、視覚で楽しめた、まゆだま作りでした

繭玉はもともと五穀豊穡を祈るのものです。今年も実り多く、豊かな年になるといいですね。



かるた大会

23日(火)には、各学年、学級でかるた大会をしました。年少は「あいうえおカルタ」、年中は「生活カルタ」、年長は「上毛カルタ」でした。年少組から年中組までは学級ごとに行い、年長組は体育館で数グループに分かれて、他の学級の友達とも戦いました。取れた数を競うので、思った通りに取れずに悔し涙を流す子がどの学年にもいました。一つのことになり、素直に涙を流せることに、子どもたちの素晴らしさや可能性を感じました。同時に、負けた悔しさや自分の思い通りにならないことに対して、他人に怒りをぶつけるのではなく、年齢とともに少しずつ折り合いをつけていくことも学んできている姿に、成長も感じたかるた大会でした。



母親学級

春の25日(木)に父母の会主催の「母親学級」が開催されました。今回のテーマは、「小児を対象とした救急法」の講習会でした。30名の保護者の方の参加のもと、高崎消防署の方を講師にお迎えして受講しました。様々な状況を想定して学んだあとに、実際に一人一人がダミー人形を使って心臓マッサージをしたり AED を使用したりして、蘇生法を実践しました。また、小児が異物を誤飲した際の吐き出させ方も紹介してもらいました。(小児には、腹部突き上げ法はしてはいけません。内臓を損傷する危険があるためです。)参加された皆さんはみんな真剣な面持ちで、質問もたくさんしていました。ご自分のお子さんがいざというときに、自分が慌てず、救命したいという本気さが伝わってきました。いざという時が絶対にこないことを願っています。

